

新規事業採択時評価結果一覧

【公共事業関係費】
【整備新幹線整備事業】

事業名 事業主体	総事業費 (億円)	費用便益分析			貨幣換算が困難な効果等による評価	担当課 (担当課長名)	
		貨幣換算した便益:B(億円)		費用:C (億円)			B／C
		便益の内訳及び主な根拠					
北海道新幹線 (新函館(仮称)・札幌間) 独立行政法人鉄道建設・運輸 施設整備支援機構	16,700	8,139	利用者便益:4,349億円 供給者便益:3,470億円 環境等改善便益:68億円 残存価値:253億円 輸送密度:14,800人キロ/日・km (新函館・札幌間)	7,283	1.1	・災害時の多重性・代替性の確保 ・冬季における輸送安定性 ・滞在可能時間の増加 ・人的交流の活発化 ・沿線地域における消費活動の活発化、設備投資の活性化、ビジネスの効率向上等による経済波及効果 等	鉄道局 施設課 (課長 潮崎俊也)
北陸新幹線 (金沢・敦賀間) 独立行政法人鉄道建設・運輸 施設整備支援機構	11,600	9,170	利用者便益:6,343億円 供給者便益:2,474億円 環境等改善便益:39億円 残存価値:314億円 輸送密度:23,400人キロ/日・km (金沢・敦賀間)	8,222	1.1	・災害時の多重性・代替性の確保 ・冬季における輸送安定性 ・滞在可能時間の増加 ・人的交流の活発化 ・沿線地域における消費活動の活発化、設備投資の活性化、ビジネスの効率向上等による経済波及効果 等	鉄道局 施設課 (課長 潮崎俊也)
九州新幹線 (武雄温泉・長崎間) 独立行政法人鉄道建設・運輸 施設整備支援機構	5,000	4,594	利用者便益:2,077億円 供給者便益:2,319億円 環境等改善便益:33億円 残存価値:164億円 輸送密度:7,800人キロ/日・km (武雄温泉・長崎間)	4,206	1.1	・滞在可能時間の増加 ・人的交流の活発化 ・沿線地域における消費活動の活発化、設備投資の活性化、ビジネスの効率向上等による経済波及効果 等	鉄道局 施設課 (課長 潮崎俊也)